

称号及び氏名 博士（保健学） 林 良 太

学位授与の日付 令和5年3月31日

論 文 名 統合失調症患者の「結論への飛躍」に関する心理社会  
行動学的要因の探索  
—精神機能と社会的行動からみた支援を目指して—

論文審査委員 主 査 石井 良平  
副 査 内藤 泰男  
副 査 横井 賀津志

## 学位論文の要旨

統合失調症患者は、少ない情報ですぐに判断をする結論への飛躍 (Jumping to Conclusions : JTC) バイアスを持つと報告されている。JTC は意思決定に関連し、リカバリーや就業などの社会的転帰に影響することが示唆されており、その重要性が指摘されている。JTC は妄想の発生と維持に関する研究から発見され報告されているが、そのメカニズムや原因は未だ明らかにされていない。この統合失調症患者の JTC に関わる心理社会行動学的要因を探索するため、以下の通り論述した。

第 1 章では、統合失調症における JTC の文献レビューについて概説した。JTC は妄想などの陽性症状との関連性が示唆されているが、前頭葉機能や陰性症状との関連性は検証されていないことを指摘した。そして、JTC の評価としてビーズ課題やボックス課題が報告されているが、これらは社会生活や行動を測定するものではなく、社会生活や行動における JTC 評価の課題と開発の重要性を指摘した。また、JTC バイアスは社会的転帰との関連性が示唆されているが、社会的行動や社会機能のどの要素と関連するのかは明らかにされていないことを整理した。

第 2 章では、統合失調症患者の JTC と前頭葉機能、精神症状、全般的機能との関連性を検証することを目的とした。統合失調症患者 50 名、健常対照者 50 名を対象に、ビーズ課題を実施して、JTC を比較検討した。そして、統合失調症患者において、前頭葉機能テストバッテリー、簡易精神症状評価尺度、全般的機能評価を実施して、ビーズ課題との相関解析を実施した。その結果、統合失調症患者は、健常者と比較して少ない情報で決めること、情報が増えても確信度が上がる傾きは緩やかであることが明らかになった。また、JTC と前頭葉機能の抑制コントロール、干渉刺激への感性および陰性症状、全般的機能と有意な関連がみられた。これにより、統合失調症患者は抑制コントロールが低下しているほど少ない情報で決めること、および意欲が低下しているほど情報を集めることが困難であることが示唆された。また、統合失調症患者は全般的機能が低下しているほど少ない情報で決めることが示された。

第 3 章では、情報リテラシー自己効力感尺度 (Information Literacy Self-Efficacy Report: ILSER) の日本語版を作成して、その信頼性と妥当性を検証することを目的とした。統合失調症患者 61 名、健常対照者 59 名を対象に、ILSER と健康および障害の評価 (The World Health Organization Disability Assessment Schedule : WHODAS2.0) を実施して、ILSER の内的一貫性、外的基準妥当性、因子構造を検証した。その結果、統合失調症患者は、健常者と比較して、情報リテラシーにおいて有意に自信が低く、難易度が高いと感じていることが示唆された。さらに、ILSER は高い内的一貫性を有し、生活機能を評価する WHODAS2.0 と有意な関連がみられた。因子分析において、ILSER は、情報の入手やチェック

から構成される「情報の入手と整理」の因子と情報収集の計画やマネジメントから構成される「情報収集の準備と計画」の因子から構成される2因子構造であることが確認された。

第4章では、統合失調症患者のJTCと社会的行動、情報リテラシー自己効力感との関連性、およびJTCへの影響を検証することを目的とした。統合失調症患者68名と健常対照者60名を対象に、ビーズの比率が80:20と60:40である修正版ビーズ課題とILSERを実施した。さらに統合失調症患者では、社会的行動評価尺度、修正版全般的機能評価を実施した。その結果、社会的行動のうち思考障害に関連する行動や抑うつ的行動が80:20のビーズ課題に影響を与え、社会的行動の思考障害に関連する行動が60:40のビーズ課題に影響を与えることが明らかになった。JTCは、前頭葉機能障害を基盤とした思考障害に起因する行動に関連することが示唆された。

今後は、標準化された感度の高い新たなJTC課題の作成が必要である。そして、そのようなJTC課題の下で脳機能を非侵襲的に測定できる脳波や機能的磁気共鳴画像法を用いてJTCを生じさせる生理学的メカニズムの解明が必要である。さらに、統合失調症患者のJTCと社会的転帰を改善する作業療法や精神科リハビリテーションの可能性を追究する介入研究が求められる。

## 論文審査結果の要旨

上記論文は、統合失調症患者の結論への飛躍バイアスに関する報告であり、4章から構成されている。

第1章では、文献レビューを中心に、本報告の学術的背景や新規性が明示されており、その後の3つの研究目的と整合性のある内容となっている。

第2章では、統合失調症患者の結論への飛躍と前頭葉機能、精神症状との関連性を報告しており、その報告内容は、精神医学において独創的かつ新規性のある研究であり、査読付き英文雑誌(インパクトファクター付き)に既に掲載されている。

第3章では、情報リテラシー自己効力感尺度の日本語版を作成し、統合失調症におけるその信頼性と妥当性を検証しており、未だ検証されていない尺度の研究であるため新規性のある内容となっている。

第4章では、統合失調症患者の結論への飛躍と社会的行動、情報リテラシー自己効力感との関連性、およびその影響を検証しており、前述の研究を統括する内容である。

それぞれの研究において、その研究目的に妥当な方法手法が選択されている。全体を通して学術論文の体裁をなしており、理路整然と記載されている。そして、新規性があり、その一部は、査読付き英文雑誌にも掲載されており、学術的な意義も高いと言える。

よって、学位審査の結果、博士の学位に値するため合格とする。